

002号(2010年12月20日)

目次

全国協同学習研究会 閉じる
IASCE国際大会 開かれる
出版情報

全国協同学習研究会 閉じる

1970年代から80年代にかけて、日本の協同学習興隆の一翼を担ったバズ学習の流れが、協同教育の海原に流れ込んで7年。その知恵と精神は、確かにJASCEに受け継がれ、日本の協同学習の新たな発展に寄与してきました。そして先月7日、全国協同学習研究会は解散し、本会と融合しました。

【全国協同学習研究会の杉江修治会長のコメント】

「全国協同学習研究会」は、1978年に設立された「全国バズ学習研究会」を前身とする長い歴史を持つ研究会です。この会が2010年度を持って閉じることとなりました。11月7日に名古屋でその閉会

の会合を持ちました(写真)。この会では、その多くは実践公開を伴う39回の全国大会を開催し、500を超える実践報告や著書、論文などを残しています。しかし、次第に会員が固定化し、会員の活動も2004年に発足した日本協同教育学会への参加に多くを割くようになりました。今後は日本協同教育学会に、この研究会が培ったノウハウを生かす形で、「発展解消として」会を閉じた次第です。

(杉江修治)

IASCE国際大会 開かれる

IASCE (International Association for the Study of Cooperation in Education / 国際協同教学会)の国際大会が、オーストラリアのクイーンズランド大学教育学部と共催で、11月25日から3日間、クイーンズランド州の州都ブリスベンで開催されました。この大会には22カ国から120名を超える参加者が集まりました。日本からは11名が参加し、内9名

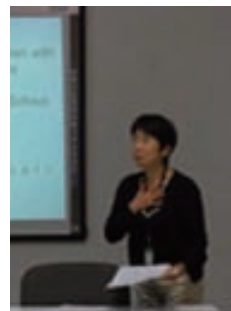
がJASCEの会員でした。また、大会に先立つ24日の理事会で、JASCEからの代表理事として、伏野久美子さん(JASCE理事)が正式にデビューしました(この件の詳

細は次号で)。

【参加者の声】

私は2008年の名古屋大会に続いて、今回のブリスベン大会でも、研究発表を行うという貴重な機会を得ました。発表テーマは”The potential benefit of “Dramatic Play” on Children with autism spectrum disorders in Resource Room in Japanese Elementary School”。ソーシャルスキル獲得に困難を示すことが多い自閉症スペクトラムの子どもたちを対象に、協同学習の要素を多く含んだ「劇遊び」をSSTの一環として指導に取り入れ、ソーシャルスキル向上を図った実践を分析し、その効果を報告しました。大変アットホームな雰囲気の中、フロアの方々からはご質問も頂き興味を持って聴いていただいたと感じています。英語で報告するのはかなりのプレッシャーですが、この学会なら暖かく受け止めてもらえると思います。皆さん、チャレンジしてみたいかがでしょうか？

(創価大学教育学部准教授 高野久美子)



JASCE

出版情報

★協同教育実践資料12 小松市立国府中学校著・杉江修治監修 『自ら学び、心豊かで、たくましく生きる、実践力のある生徒の育成—学び合い、認め合い、高め合える場づくり・集団づくりを通して』 一粒書房 2010年。

…小松市立国府中学校の協同学習実践の報告書をまとめたものです。授業にとどまらず、特別活動を含めた子どもの育ちの環境づくりを一貫して協同で進める試みです。注文は直接一粒書房へ (page1@ltsubu.com) お願いします。価格は2500円です。

★ジョンソン、ジョンソン、ホルベック著／石田、梅原訳 改訂新版『学習の輪』 二瓶社 2010年。

1998年に翻訳したの原著の第3版でした。今度の新しい『学習の輪』はその後2度の改訂を経た、第5版の翻訳です。ご覧いただけばわかると思いますが、改訂版というよりまったく新しい本であるかのように、内容はより具体的で、そしてより体系的なものになっています。おそらく、協同的な学びをクラスに築くための基本的な考え方と方法についての、現在入手できるもっとも優れた入門書です。なお、まとまった

部数のご要望がありましたら、著者割引でお送りできるよう出版社に依頼しますので、ご希望の方は訳者 ishidah@nanzan-u.ac.jp まで、ご一報下さい(4冊以上の場合は送料が無料になるそうです)。



●IASCE国際大会(つづき)

オーストラリアのクイーンズランド大学で開催された国際協同教育学会に参加することができました。JASCEと同様に、「参加者全員が学びを深めよう」という気概に満ちたすばらしい学会でした。私は、"How Japanese Jr. High Schools Implement Cooperative Learning: A comparison between a Johnson model-based school and others"と題して発表を行い、日本のグループ学習が、ジョンソンらが示す協同学習

の5つの構成要素について不十分であることを明らかにしました。今回の発表は、私にとって大変大きなチャレンジでした。英語も難しく、準備をされていて何度も絶望することがありましたが、勇気を出して挑戦して本当によかったと今は思います。ブリスベンで出会うことのできた各国の先生方と今後も交流を重ね、協同教育の発展に貢献していきたいと思います。

(創価大学教職大学院
院生 西中克之)

●ワークショップのお知らせ

2011年2月20日、米子コンベンションセンターにて、協同学習の1日研修会が行われます。詳しくは学会HP (<http://jasce.jp/data/ws20110220.pdf>)を参照ください。

●論文投稿について

本会の機関紙『協同と教育』に論文投稿なされる方は、編集委員会宛にメールでお問い合わせください。編集委員会のメールアドレスはeditor@jasce.jpです。